

藤沢駅東西地下通路リニューアル計画

2019年（令和元年）9月

藤 沢 市

目 次

| | | |
|---|------------------------|---|
| 1 | 事業概要 | 1 |
| | (1) 目的 | 1 |
| | (2) 事業の範囲 | 1 |
| 2 | リニューアルコンセプト | 2 |
| 3 | デザインコンセプト | 3 |
| 4 | イメージグラフィックと地下通路の愛称 | 4 |
| 5 | 内装デザイン | 4 |
| | (1) 通路部 | 4 |
| | (2) 広場部 | 5 |
| 6 | 案内誘導サイン等 | 5 |
| | (1) 基幹サイン | 5 |
| | (2) 補完サイン | 6 |
| 7 | 広場空間の利活用（エリアマネジメントの導入） | 6 |
| | (1) 多目的な利活用例 | 6 |
| | (2) 参考事例 | 8 |
| 8 | スケジュール | 9 |

1 事業概要

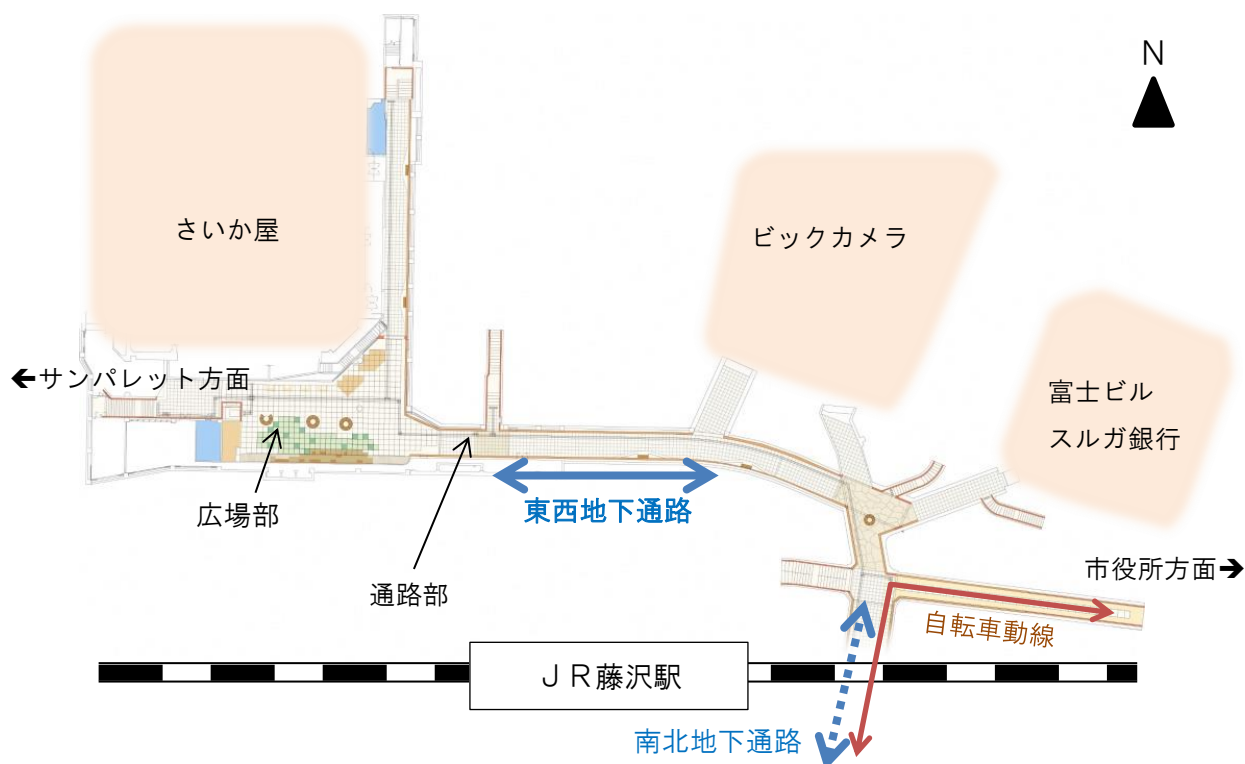
(1) 目的

既存の構造躯体を活かしつつ、バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮を行うとともに、藤沢駅周辺の再活性化に向け、にぎわいや交流，憩いを育める空間の創出を図るリニューアルを目指します。

(2) 事業の範囲

今回リニューアルの対象範囲は、東西方向の地下1階歩行者通路を対象とします。自転車の通行については、地下通路内は押し歩きとし、市役所側斜路付き階段から南北地下通路を経由し南口につながるルートの利用を誘導し、東西方向については、地上部の利用を促すことを基本とします。

南北方向の地下通路は、周辺ビルや駅南口広場の再整備の計画に合わせ、リニューアルを進めていきます。



2 リニューアルコンセプト

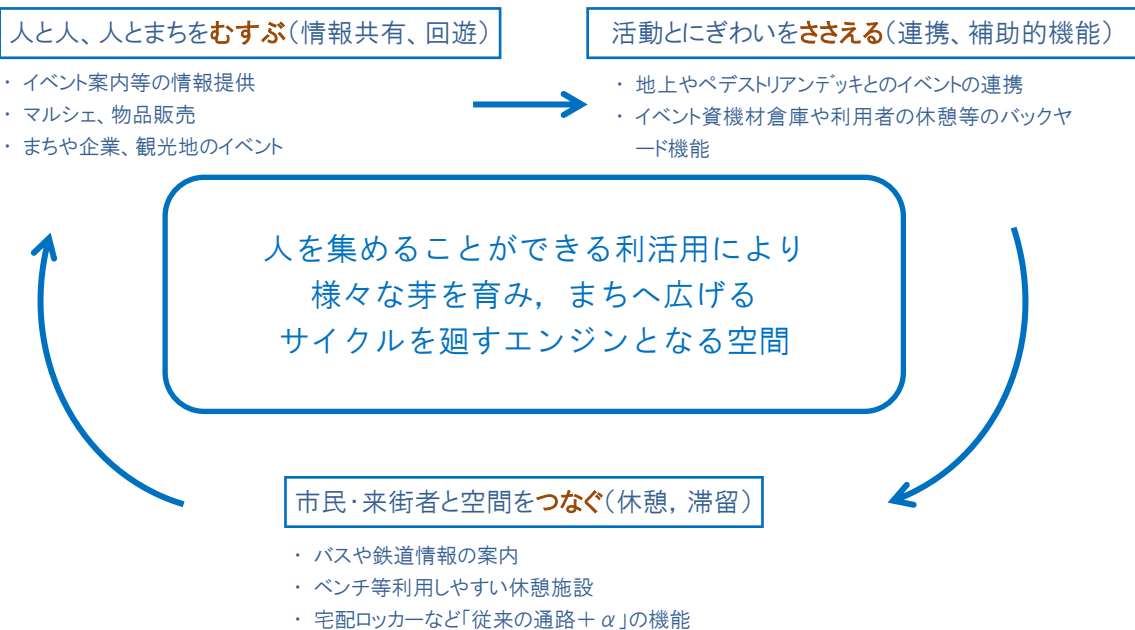
現状の課題を踏まえ、地下の特性を活かし、人々が集い、にぎわいが創出され、安心して快適な空間づくりとして『つなぐ・むすぶ・ささえる』をコンセプトにリニューアルを目指します。

| 現状の課題 | | |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駅と直結せず、デッキ、地上とも回遊しづらい ◇ 地上部や周辺商業施設等への出入口が分かりづらい | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 人通りが少なく、地下通路の認知度が低い ◇ 雨が降込み通行がしづらい | <ul style="list-style-type: none"> ◇ 主な昇降施設が階段でありバリアフリーへの対応が遅れている ◇ 複雑な動線で案内が不足し地上との位置関係が分かりづらい |

| 目指す方向性 | | |
|-------------------------------|---|--------------------------------------|
| 駅街区の回遊性の向上 | 地下の特性を活かした空間 | 人にやさしい空間 |
| 交通結節点としての機能、周辺街区とのつながりを深める | 地下の環境性能を高めつつ、天井や壁などがある地下特有の条件を活かし、地上部やペDESTリアンデッキにはない場を提供する | 誰もが安心して使いやすい快適な歩行空間と多様な利用が可能な空間を提供する |
| まちに人を広げ、人とまちをささえる仕組みと活動の空間づくり | | |

『つなぐ・むすぶ・ささえる』

駅、バスターミナル、商業施設を**つなぐ**、地上にはない囲われた空間特性を活かし、にぎわいや憩いの場を演出することで、「ヒト・コト・マチ」を**むすび**、人々が「マチ」を**ささえる**空間づくりを目指します。



3 デザインコンセプト

デザインコンセプトは、藤沢の立地や風土をキーテーマとし、景観デザインのイメージを作成します。

大きな水面を南に擁した 湘南・藤沢の風土



湘南・藤沢の風土は、相模湾の存在が大きく影響しています。

その大きな水面を空に写した穏やかな風景は音楽・映像・文学などに描かれ、この地に暮らす人々の心象風景になっています。



「つなぐ」「むすぶ」歴史や文化



〈初代歌川広重「東海道五十三次之内藤沢」〉

旧東海道の宿場町である藤沢は、そこから観光地・江の島への結節点として発展しました。

現代においても、JR東海道本線、小田急江ノ島線と、湘南文化の象徴でもある江ノ電の連絡地点でもあります。



「水面の象形」を地下通路の風景テーマに



相模湾の大きな水面を表層とする、くりかえし、穏やかにうち寄せる波。その連続してつながる文様の象形が、藤沢の地下通路のキーテーマになると考えました。



したがって、これらの象形を幾何学的な柄で表現し、地下通路の風景イメージを展開します。



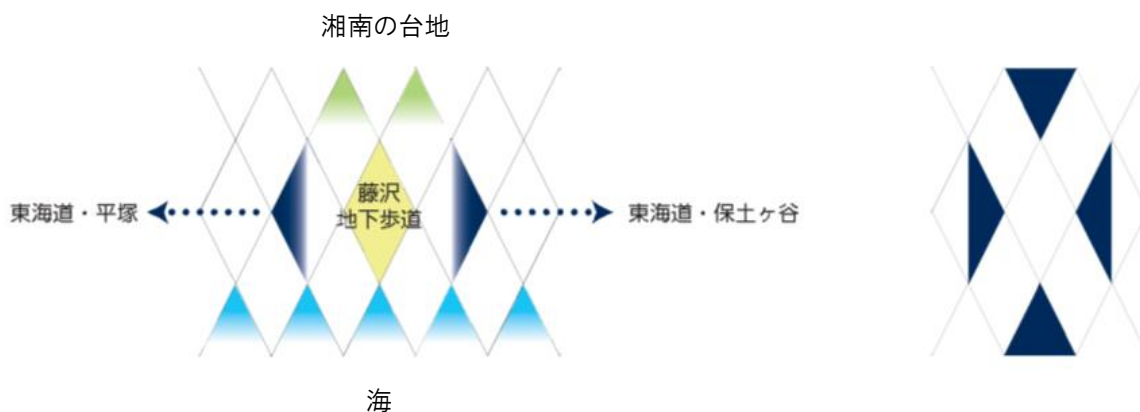
4 イメージグラフィックと地下通路の愛称

地下歩道の遠近感のある風景を象徴するとともに、「つなぐ」「むすぶ」という地下通路のテーマをイメージする矢印が向き合うという意味も持たせています。具体的な造形は、壁面の柄と相似形とし、全体として地下通路の表すグラフィックとして計画しています。

「Passage（パッセージ）」とは一般に通路のこと。音楽用語では「主旋律と主旋律をつなぐフレーズ」という意味もあり、「つなぐ」「むすぶ」というテーマを表現しています。

また、湘南の玄関口である藤沢は、湘南エリアのライフスタイルを広くつなぐという意味を込めて（仮称）「**Shonan Passage**」とし、デザインコンセプトに基づく地下通路の愛称の案として提案します。

地下通路は「湘南の台地」と「海」を結ぶ接点でもあるため、上下の三角形で構成するバリエーション等、様々な組み合わせができるグラフィックとして構成できます。



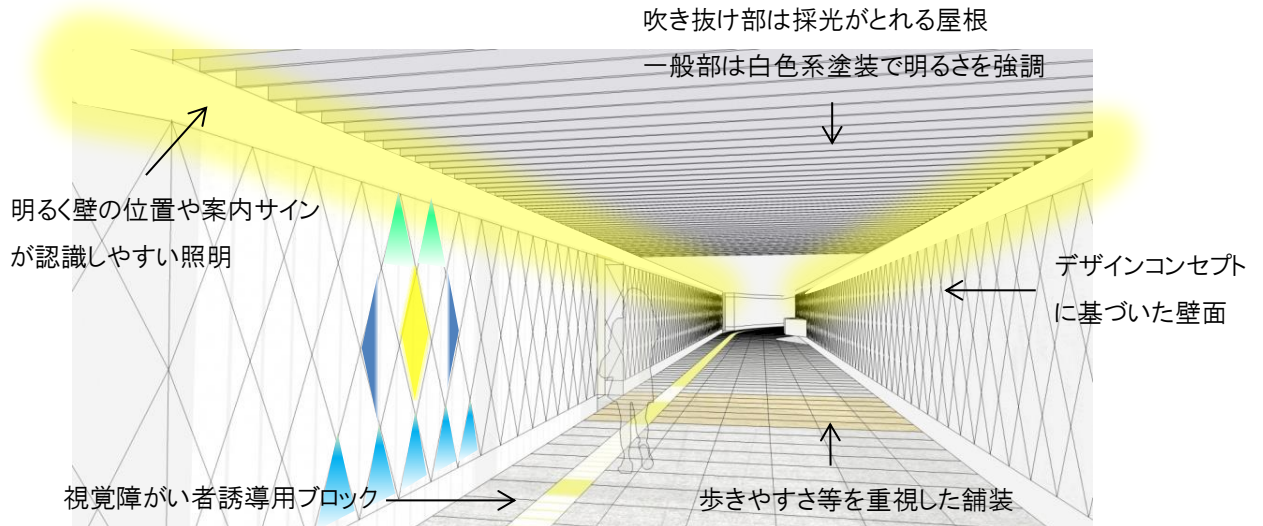
5 内装デザイン

地下通路の内装デザインは、リニューアル及びデザインコンセプトを基に、空間整備を行います。

(1) 通路部

延長約80m、幅員約5mの東西地下通路は、安全で快適に回遊できることを目指し、壁面、天井、歩行面のデザインを検討します。

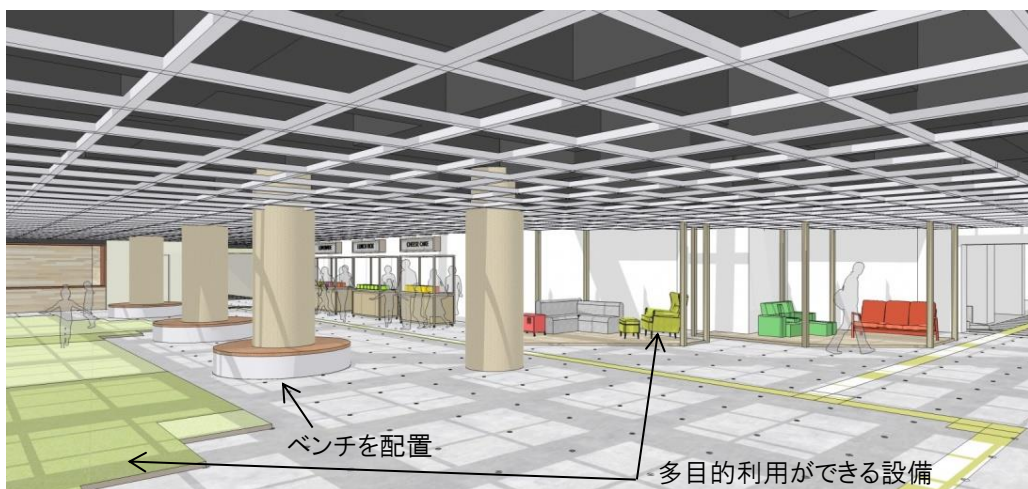
- ・ 構造的に対応可能な範囲は、天井板を高くし、空間を広げます。
- ・ 吹抜け部については、雨が降込まず採光がとれる屋根を設置します。
- ・ 天井の色は、白色系の塗装で明るさを強調します。
- ・ 壁の位置が分かりやすく、案内サイン等が認識しやすくなるように、明るい照明を設置します。
- ・ 歩きやすく、ベビーカー等の振動にも配慮した舗装材の選定と視覚障がい者誘導用ブロックを配置します。



(2) 広場部

床面積約400㎡の広場部については、通路部と同様に安全性と快適性を高めるとともに、新たな交流やにぎわいの機能を創出できるような空間を目指します。

- ・ 天井板を高くし、空間を広げます。
- ・ 憩いの場としてのベンチの設置や、多目的利用が可能な空間とします。

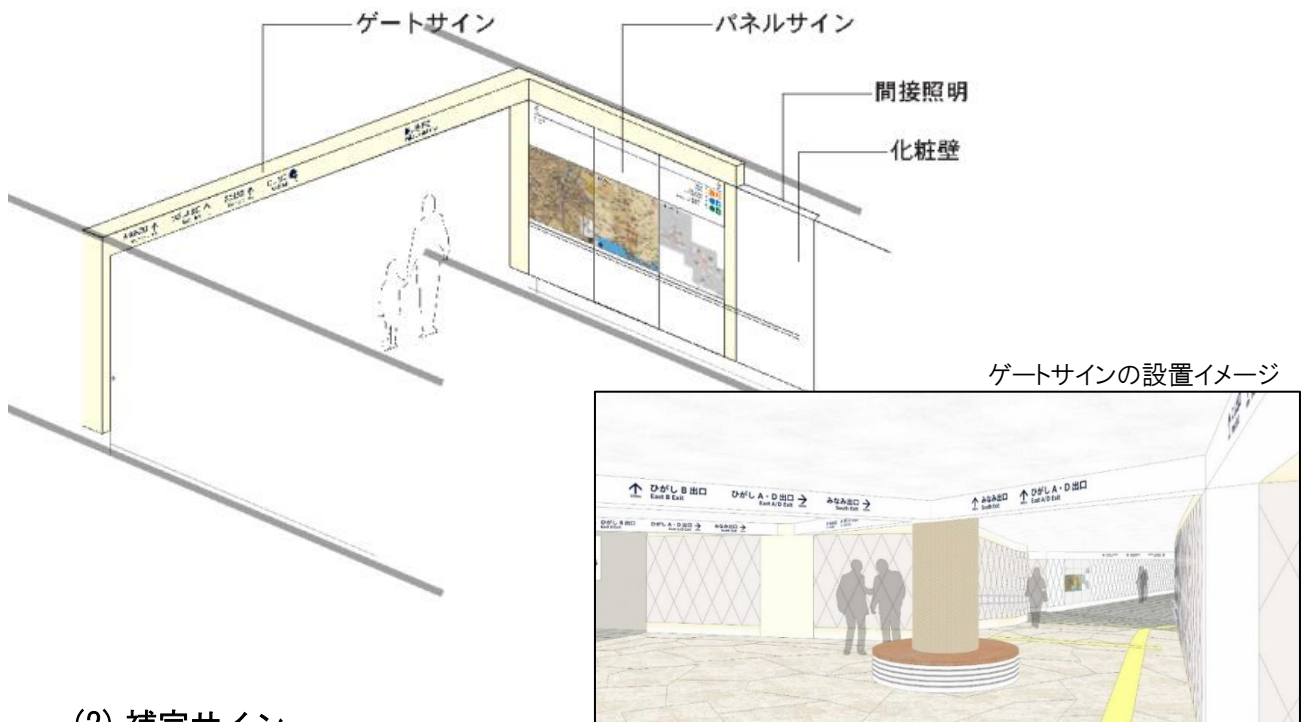


6 案内誘導サイン等

案内誘導サインは、誰もが安心して使いやすい地下通路になるように、地上部出入口への案内、エレベーター等の昇降施設へ誘導、地上との位置関係が分かる情報などのサインを設置するとともに、災害発生時の誘導サイン等にも配慮します。

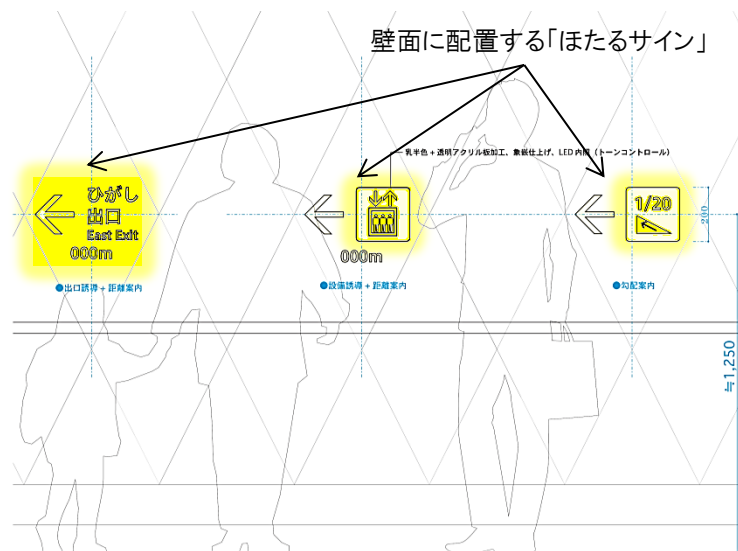
(1) 基幹サイン

基幹となる地上部出入口への案内誘導サインや位置情報等のサインは、太陽光が届かない地下空間であることを考慮して、光を活用した誰もが認識しやすいサインにリニューアルします。



(2) 補完サイン

基幹サインを補完するために、ひとつの情報を表示する「ほたるサイン」を壁面に設置します。ユニバーサルデザインに配慮し必要な情報を、ふわっと強く・弱く呼吸をするように光るサインで案内します。



7 広場空間の利活用（エリアマネジメントの導入）

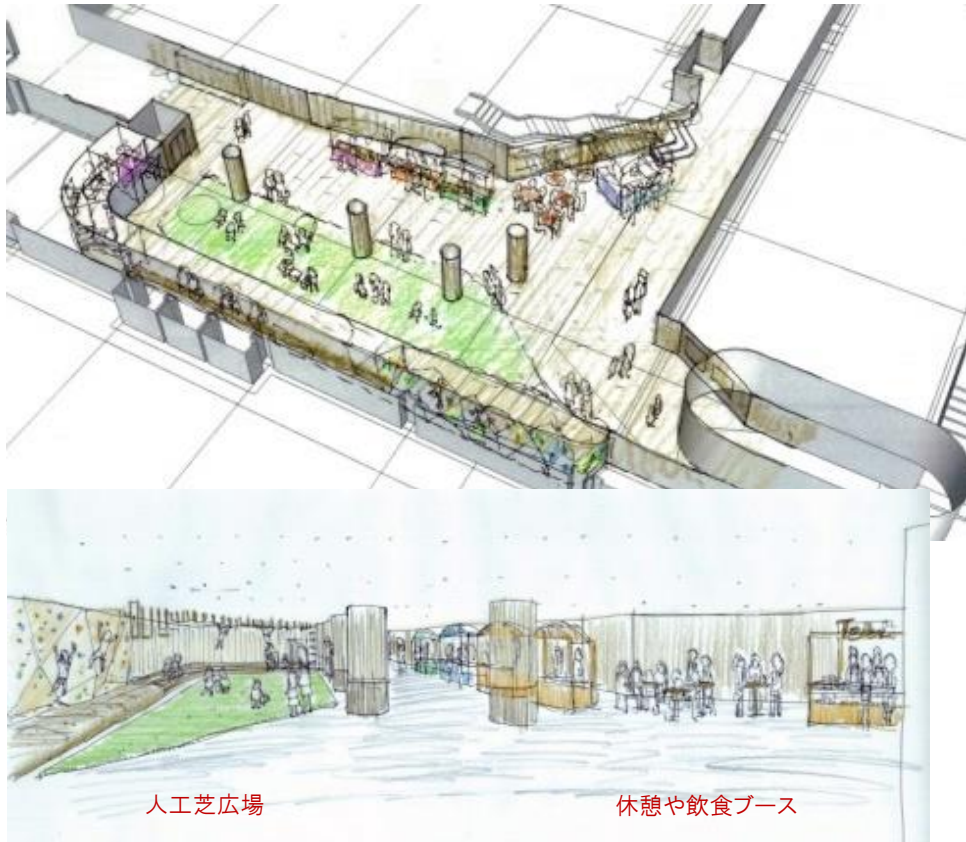
広場の空間利用については、官民連携したエリアマネジメントの導入を見据え、にぎわいや憩いの場として、多目的な用途で活用できる広場づくりを目指します。

(1) 多目的な利活用例

広場空間を活用し、にぎわいの創出、歩いて楽しい空間として、次のような活用を想定しています。

○子どもたちが安全に遊べる空間

子どもたちが安全に遊べる可動式人工芝を設置し、ベンチ等の配置により保護者も見守れるような空間とした案



○デジタルサイネージを活用したイベント空間

広場の壁面にデジタルサイネージを配置し、映像放映やバーチャルリアリティーを活用した体験イベントができる空間とした案



○藤沢のライフスタイルを感じるポップアップ店舗空間

期間限定の地元名産品の物販やチャレンジショップとしての活用により、
起業の機運の醸成など、地域の商業活動が活性化できる空間とした案



(2) 参考事例

(札幌駅前通地下広場「チ・カ・ホ」) 平成 31 年 3 月



〈デジタルサイネージ活用事例〉



〈ベンチ設置による憩いの空間〉



〈マルシェ開催によるにぎわいの創出〉



〈壁面広告〉

8 スケジュール

令和元年度に詳細設計を実施します。詳細設計終了後は、令和2年度にリニューアル工事に着手し、令和3年度中の工事完成を目指してまいります。

なお、エリアマネジメントの導入は、工事完成後を予定しています。